

力強く、持続可能な中核市へ

～未来を切り拓く新時代のまちづくり～

中核市サミット 2021 in 松山

2021 **11.11** [木]

13:00～17:00

会場 / ANA クラウンプラザホテル松山

愛媛県松山市一番町3丁目2-1

主催：中核市長会・松山市

後援：総務省・愛媛県・全国市長会・全国市議会連合会・中核市議会連合会

開催スケジュール

13:00～ 13:30	開会式
13:35～ 14:35	基調講演 演題「ポストコロナ時代に求められる中核市の役割」
14:50～ 16:10	パネルディスカッション 第1会場「デジタルを原動力とした「力強い」まちづくり」 第2会場「多様な連携による「持続可能な」まちづくり」
16:25～ 17:00	全体会議・閉会式



道後温泉本館（保存修理工事前の様子）

明治27(1894)年に改装された重要文化財の公衆浴場を次代に受け継ぐため、令和6年までの完了を目指し、営業しながら保存修理工事中。日本唯一の皇室専用浴場がある又新殿・湯の瀧棟は、令和3年7月に工事を終え、湯の瀧で入浴できる。

- ふるさとづくり大賞 総務大臣賞（道後まちづくりアート事業）〔令和2年度〕
- 文化ツーリズム賞 スポーツ庁・文化庁・観光庁長官賞（道後温泉本館保存修理工事を観光資源化 道後 REBORN プロジェクト）〔令和2年度〕

お問い合わせ

中核市長会松山市サミット開催事務局（松山市企画戦略課内）

TEL: 089-948-6213 FAX: 089-934-1804 E-mail: kikaku@city.matsuyama.ehime.jp

力強く、持続可能な中核市へ

～未来を切り拓く新時代のまちづくり～

中核市は、平成8年に発足以来、社会情勢の変化に対応しながら、地域の中核都市として、また市民に最も近い基礎自治体として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきました。制度創設から四半世紀を経て、全国の中核市は当初の12市から62市まで拡大し、その人口は約2,295万人となるなど、我が国での存在と責任はより一層高まっています。

コロナ禍を機に、世界が大きく、急速に変化する中、国内でもデジタル化やグリーン化といったポストコロナ時代に向けた変革の動きが加速しています。一方、地方では、東京一極集中に変化の兆しが見られるものの、少子高齢化は一層進んでおり、人口減少問題は依然として中長期にわたる最重要課題です。

こうした中、地域の核となる中核市は、新たな時代の流れを力にしながら、将来にわたって持続可能な形で、地域の発展をけん引していかなければなりません。そこで、中核市サミット2021 in 松山では、デジタルを原動力とした「力強い」まちづくりと多様な連携による「持続可能な」まちづくりについて、中核市の市長が一堂に会して議論を深め、その方策を全国に発信することで、日本の未来を切り拓いていくことを目指します。

基調講演 (約60分)



<講師>

羽藤 英二氏

東京大学大学院
工学系研究科 教授

<講演>

ポストコロナ時代に 求められる中核市の役割

1967年愛媛県生まれ。専門は交通工学・都市工学。愛媛大学助教、MIT客員研究員、UCサンタバーバラ客員教授を経て2012年から現職。世界交通学会賞をはじめ数々の賞を受賞するなど、世界的に注目を集める都市工学研究者の一人。長年、国土交通省の社会資本整備審議会・交通政策審議会委員等で交通政策に関わり、2015年から国の経済・財政一体改革推進委員会委員、2021年4月から一般社団法人計画・交通研究会会長に就任。松山アーバンデザインセンター長、未来につなぐ道後まちづくり実行委員会委員長を務めるなど、松山をはじめ、全国各地の観光まちづくりや都市・交通計画、復興計画・事前復興などを手掛けている。



パネルディスカッション (約80分)

第1会場

<テーマ>

デジタルを原動力
とした「力強い」まちづくり



<コーディネーター>
檀 裕也氏

松山大学 副学長
経営学部教授



<コンメンター>
竹岡 ゆかり氏

富士通 Japan 株式会社
執行役員常務兼CMO

<パネリスト> 中核市市長 4名程度

コロナ禍は、人々の生活や働き方をはじめ、企業のビジネスモデル、行政サービスなど、社会のあらゆる分野でデジタル化の動きを加速させています。

また、国も、ポストコロナ時代の成長を生み出す原動力として、デジタル庁創設のほか、自治体や民間のデジタルトランスフォーメーション(DX)の促進など、官民挙げたデジタル化の推進に注力しています。

そうした中、市民に身近な行政を担う自治体の役割は極めて重要であり、とりわけ中核市では、新たな価値や活力を生み出し、様々な脅威や社会変化にも対応できる力強いDXを進めることで、地域全体のデジタル化を先導していくことが求められています。

本パネルディスカッションでは、中核市でのデジタル技術を活用した地域の課題解決や活性化などの先進的な取組を紹介するとともに、自治体DXのあり方や方策等について議論します。

第2会場

<テーマ>

多様な連携による
「持続可能な」まちづくり



<コーディネーター>
前田 眞氏

愛媛大学
社会連携推進機構 教授
SDGs 推進室副室長



<コンメンター>
伊藤 香織氏

東京理科大学
理工学部 建築学科 教授

<パネリスト> 中核市市長 4名程度

コロナ禍は、社会経済をはじめ、人々の行動や価値観にまで様々な変化をもたらしており、自治体を取り巻く課題やコースは、ますます複雑・多様化しています。

一方、それらに対応するための人材や資金、ノウハウ等は今後不足していくと見込まれており、様々なステークホルダーと連携して経済・社会・環境の三側面から統合的に解決を図るSDGsの推進など、多様な連携により複数課題を同時解決し、新たな価値を創出する取組がこれまで以上に重要になっています。

そうした中、地域の核である中核市には、多様な主体をつなぐとともに、それぞれの強みを生かし、弱みを補いながら、地域の持続的な発展へと導くコーディネーターとしての役割が期待されています。

本パネルディスカッションでは、SDGs達成に向けた様々な主体との連携をはじめ、多様な連携によって地域の課題解決や魅力向上に取り組む中核市の先進事例を紹介するとともに、新たな連携のあり方や手法等について議論します。

松山市や道後温泉の
魅力をギュッと
詰め込んだ動画
をご紹介します。
ぜひご覧ください。



松山魅力発信ムービー
finding MATSUYAMA
dandanmatsuyama.com/finding/



道後温泉の魅力を紹介
道後 刻めぐり
dого.jp/tokimeguri

